

事務事業マネジメントシート(平成29年度実績と平成30年度計画)

平成30年 9月 6日 更新

事務事業名		総合センター維持管理事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	3	教育の健康				所属部	教育委員会事務局	課長名	栗木 清智	
	施策	10	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	石田 祐介	
	施策の柱	39	生涯学習施設(環境)の整備				所属班	生涯学習班	(内線)	1504	
予算科目		会計一般	款10	項5	目2	事業連番10837	根拠法令	成果優先度評価結果 : ⑧ コスト削減優先度評価結果 : ①			
終了、開始年度		☐ 29年度で終了 ☐ 29年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 9 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	総合センター「ヴィーブル」の維持管理事業。平成7年11月に総合センターが開館し、旧合志町における生涯学習施設の一大拠点となり、施設の維持管理が必要になった。生涯学習、生涯スポーツの一大拠点として、多くの市民に利用され、あるいは全国大会規模の屋内スポーツや県内屈指の文化ホールを利用した催し物など、スポーツや文化芸術面での振興に果たした役割は大きい。建築後20年を経過しており、設備の一部を経年更新する必要がでており、計画的に施設の補修・機器の更新を行う必要がある。
【業務の流れ】	総合センターの維持管理に係る各種の契約事務、各所の工事営繕、事務用機器の賃貸借、備品や消耗品、燃料の補給などを行い、市民の要望に応じた利用しやすい施設環境を整える。
【主な予算費目】	需用費(消耗品費、光熱水費、修繕費、施設修繕費、燃料費) 役務費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費、備品購入費
【意見や要望】	毎年、維持管理経費も多額であるため、施設利用が有効か、快適な施設の環境が保たれているかを問う声が時折議会から出ている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 29年度実績(29年度に行った主な活動) (DO)		30年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
総合センター植栽管理業務、警備業務、清掃業務等		総合センター植栽管理業務、警備業務、清掃業務、空調設備等保守点検業務、各施設修繕業務等	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア: 総事業費	千円	熊本地震による災害復旧工事のため休館していたが、平成30年4月開館に伴う維持管理関連の需用費、委託費等の増額	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
市民、市外からの通勤・通学者		→ ア: 市民	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
市民、市外からの通勤・通学者が総合センター「ヴィーブル」の施設を活用することにより、目標・目的を持って実際に生涯学習を行う。		→ ア: 目標・目的を持って、実際に生涯学習を行っている人の割合(市民アンケート)	%
*③成果指標設定の理由と30年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
・計画的な整備と適正な管理運営を行い、施設の機能性・安全性が維持されることで、市民がより快適に施設を活用することができる。			全体計画
・災害復旧工事が終了し、施設利用が再開したため、前年度より多くの市民の利用が見込まれるため、目標値を微増で設定。			～ 年度
			72,138

(2) 各指標・総事業費 の推移		単位	27年度 実績(決算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	31年度 予定	32年度 見込	33年度 見込	
① 活動指標	ア イ	千円	0	56,061	88,019	33,399	88,519	88,519	88,519	0	
② 対象指標	ア イ	人	60,008	61,022	60,900	61,652	61,500	62,000	62,500	63,000	
③ 成果指標	ア イ	%	35.1	30.6	35	27.2	35	35	0	0	
投資 事業 入費 量	財源 内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円	9,350	1,599	6,501	4,147	12,991			
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	93,034	54,463	46,782	29,253	56,938			
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	102,384	56,062	53,283	33,400	69,929	0	0	0
		(A)のうち指定経費	千円	3	1,608	57	2	3	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	0	3	0	3	0	0	0	0
		延べ業務時間	時間	0	325	0	1,250	0	0	0	0
		(B)人件費計	千円	0	0	0	4,945	0	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	102,384	56,062	53,283	38,345	69,929	0	0	0	

事務事業名	総合センター維持管理事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は29年度の後評価、ただし複数年度事業は29年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①29年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【原因】 災害復旧工事を実施していたため、必要最小限の維持管理しか行っていない。
	②30年度目標達成見込み	☐ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☒ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 次年度は例年通りの維持管理業務を実施するため、
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 経年とともに施設の利便性低下を抑えるため、必要な費用を確保していくことで現状水準を維持する。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の施設は他にもあり、指定管理者への移行等の行うことで、類似事業との統廃合・連携の可能性がある。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 老朽化した施設設備の改修や管理制度の見直しなどを行うことで事業費の削減の余地がある。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 指定管理者制度の導入などの施設管理体制の見直しを行うことで、削減の余地がある。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 利用者は施設使用料を負担しているが、近隣の市町村等の施設使用料と比較し、見直すことで、適正化の余地がある。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】 施設の機能性・安全性の維持に関して、指定管理者制度等を活用することで、行政の役割分担の適正化の余地がある。

3 評価結果の総括（CHECK）

災害復旧工事の中で、地震被害の復旧及び電灯のLED化やトイレの様式化などを行い、施設設備の改修を行った。しかし、未改修の経年劣化が進んで設備があり、計画的な施設整備を行っていく必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"> </td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								